

### 【今日の説教から】

ついに1ヨハネの手紙の最後となりました。「死に至ることのない罪」と「死に至る罪」という言葉が恐ろし気に迫ります。不安になります。私は大丈夫だろうかと恐怖に苛まれます。しかしこの書は私たちに何を伝えようとしていたのかを思い起こしましょう。

「神の子の御名を信じるあなたがたに、永遠のいのちを持っていることを、悟らせるため…神が永遠のいのちをわたしたちに賜わり、かつ、そのいのちが御子のうちにあるということである。御子を持つ者はいのちを持ち…」

そしてこの言葉に目を留めてください。

「すべて神から生れた者は罪を犯さないことを、わたしたちは知っている。神から生れたかたが彼を守っていて下さるので、悪しき者が手を触れるようなことはない」

罪を犯さない。これは罪を犯し続けられないという意味をも持ちます。

圧巻の4回重ねての「私たちは知っている」です。何を私たちは知っているのでしょうか。それは私たちは罪を犯し続けることが出来ないということ、イエス様が守っていて下さるので悪しき者は手を触れることはできないということ、真実な方を知る知力を授けて下さり、真実なる方のもとにあることを知っているということです。

そして「真実」という言葉が3回。「真実なかたを知る知力」、「わたしたちは、真実なかたにおり」、「このかたは真実な神であり、永遠のいのち」。私たちは神から生まれ、罪と死から引き離されていることを喜びましょう。

皆様、残暑お見舞いを申し上げます。お盆も過ぎ、8月も終盤に差し掛かってまいりました。朝晩はしのぎやすくなってくることでしょう。

そして、ヨハネの手紙一も、今日で締めくくりです。私たちは愛の書簡に励まされました。現実的な主のお守りを実感しました。それでは読み進めてまいりましょう。

先週の箇所では、かなえ似れると信じて願うことを教わりました。

5:13 これらのことをあなたがたに書きおくれたのは、神の子の御名を信じるあなたがたに、永遠のいのちを持っていることを、悟らせるためである。

5:14 わたしたちが神に対していただいている確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞きいれて下さるということである。

5:15 そして、わたしたちが願い求めることは、なんでも聞きいれて下さるとわかれば、神に願い求めたことはすでになえられたことを、知るのである。

そして今日の箇所では、これこれを願いなさいと記してあります。これこそが神の御旨にかなった願いだということが記されているのです。

5:16 もしだれかが死に至ることのない罪を犯している兄弟を見たら、神に願い求めなさい。そうすれば神は、死に至ることのない罪を犯している人々には、いのちを賜わらうであろう。死に至る罪がある。これについては、願い求めよ、とは言わない。

死に至ることのない罪を犯している人が罪から立ち直ることが出来るように。そして神様が命を賜るように。罪の中におり、罪の支払う報酬である死を刈り取ることがないように。

ヤコブ 1:13 だれでも誘惑に会う場合、「この誘惑は、神からきたものだ」と言ってはならない。神は悪の誘惑に陥るようなかたではなく、また自ら進んで人を誘惑することもなさない。

1:14 人が誘惑に陥るのは、それぞれ、欲に引かれ、さそわれるからである。

1:15 欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生み出す。

ローマ 6:16 あなたがたは知らないのか。あなたがた自身が、だれかの僕になって服従するならば、あなたがたは自分の服従するその者の僕であって、死に至る罪の僕ともなり、あるいは、義にいたる従順の僕ともなるのである。

6:17 しかし、神は感謝すべきかな。あなたがたは罪の僕であったが、伝えられた教の基準に心から服従して、

6:18 罪から解放され、義の僕となった。

6:19 わたしは人間的な言い方をしますが、それは、あなたがたの肉の弱さのゆえである。あなたがたは、かつて自分の肢体を汚れと不法との僕としてささげて不法に陥ったように、今や自分の肢体を義の僕としてささげて、きよくならねばならない。

6:20 あなたがたが罪の僕であった時は、義とは縁のない者であった。

6:21 その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。

6:22 しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。

6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

それでは、死に至る罪と死に至らない罪とは、どうやって区別することが出来るのでしょうか。

へブル 6:1 そういうわけだから、わたしたちは、キリストの教の初歩をあとにして、完成を目ざして進むのではないか。今さら、死んだ行いの悔改めと神への信仰、

6:2 洗いごとについての教と按手、死人の復活と永遠のさばき、などの基本の教をくりかえし学ぶことをやめようではないか。

6:3 神の許しを得て、そうすることにしよう。

6:4 いったん、光を受けて天よりの賜物を味わい、聖霊にあずかる者となり、

6:5 また、神の良きみ言葉と、きたるべき世の力とを味わった者たちが、

6:6 そののち墮落した場合には、またもや神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものにするわけであるから、ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である。

6:7 たとえば、土地が、その上にたびたび降る雨を吸い込んで、耕す人々に役立つ作物を育てるなら、神の祝福にあずかる。

6:8 しかし、いばらやあざみをはえさせるなら、それは無用になり、やがてのろわれ、ついには焼かれてしまう。

6:9 しかし、愛する者たちよ。こうは言うものの、わたしたちは、救にかかわる更に良いことがあるのを、あなたがたについて確信している。

6:10 神は不義なかたではないから、あなたがたの働きや、あなたがたがかつて聖徒に仕え、今もなお仕えて、御名のために示してくれた愛を、お忘れになることはない。

6:11 わたしたちは、あなたがたがひとり残らず、最後まで望みを持ちつづけるためにも、同じ熱意を示し、

6:12 怠ることがなく、信仰と忍耐とをもって約束のものを受け継ぐ人々に見習う者となるように、と願ってやまない。

6:13 さて、神がアブラハムに対して約束されたとき、さして誓うのに、ご自分よりも上のものがないので、ご自分をさして誓って、

6:14 「わたしは、必ずあなたを祝福し、必ずあなたの子孫をふやす」と言われた。

6:15 このようにして、アブラハムは忍耐強く待ったので、約束のものを得たのである。

「いったん、光を受けて天よりの賜物を味わい、聖霊にあずかる者となり、また、神の良きみ言葉と、きたるべき世の力とを味わった者たちが、そののち墮落した場合には、またもや神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものにするわけであるから、ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である。」とは、何と恐ろしい言葉なのでしょう。私自身は大丈夫だろうか。私もまた、これくらいは大丈夫だと高をくくって神様の怒りを招いているのではないか、もう逆戻りできないところにいるということはないのかと心を探られます。

マタイ 12:1 そのころ、ある安息日に、イエスは麦畑の中を通られた。すると弟子たちは、空腹であったので、穂を摘んで食べはじめた。

12:2 パリサイ人たちがこれを見て、イエスに言った、「ごらんなさい、あなたの弟子たちが、安息日にはならないことをしています」。

12:3 そこでイエスは彼らに言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちとが飢えたとき、ダビデが何をしたか読んだことがないのか。

12:4 すなわち、神の家にはいって、祭司たちのほか、自分も供の者たちも食べてはならぬ供えのパンを食べたのである。

12:5 また、安息日に宮仕えをしている祭司たちは安息日を破っても罪にはならないことを、律法で読んだことがないのか。

12:6 あなたがたに言うておく。宮よりも大いなる者がここにいる。

12:7 『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か知っていたなら、あなたがたは罪のない者をとがめなかったであろう。

12:8 人の子は安息日の主である」。

12:9 イエスはそこを去って、彼らの会堂にはいられた。

12:10 すると、そのとき、片手のなえた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、「安息日に人をいやしても、さしつかえないか」と尋ねた。

12:11 イエスは彼らに言われた、「あなたがたのうちに、一匹の羊を持っている人があると、もしそれが安息日に穴に落ちこんだなら、手をかけて引き上げてやらないだろうか。

12:12 人は羊よりも、はるかにすぐれているではないか。だから、安息日に良いことをするのは、正しいことである」。

12:13 そしてイエスはその人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、ほかの手のように良くなった。

12:14 パリサイ人たちは出て行って、なんとかしてイエスを殺そうと相談した。

12:15 イエスはこれを知って、そこを去って行かれた。ところが多くの人々がついてきたので、彼らを皆いやし、

12:16 そして自分のことを人々にあらわさないようにと、彼らを戒められた。

12:17 これは預言者イザヤの言った言葉が、成就するためである、

12:18 「見よ、わたしが選んだ僕、わたしの心にかなう、愛する者。わたしは彼にわたしの霊を授け、そして彼は正義を異邦人に宣べ伝えるであろう。

12:19 彼は争わず、叫ばず、またその声を大路で聞く者はない。

12:20 彼が正義に勝ちを得させる時まで、いためられた葦を折ることがなく、煙っている燈心を消すこともない。

12:21 異邦人は彼の名に望みを置くであろう」。

12:22 そのとき、人々が悪霊につかれた盲人で口のきけない人を連れてきたので、イエスは彼をいやして、物を言い、また目が見えるようにされた。

12:23 すると群衆はみな驚いて言った、「この人が、あるいはダビデの子ではあるまいか」。

12:24 しかし、パリサイ人たちは、これを聞いて言った、「この人が悪霊を追い出している

のは、まったく悪霊のかしらベルゼブルによるのだ」。

12:25 イエスは彼らの思いを見抜いて言われた、「おおよそ、内部で分れ争う国は自滅し、内わで分れ争う町や家は立ち行かない。

12:26 もしサタンがサタンを追い出すならば、それは内わで分れ争うことになる。それでは、その国はどうして立ち行けよう。

12:27 もしわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出すとすれば、あなたがたの仲間はだれによって追い出すのであろうか。だから、彼らがあなたがたをさばく者となるであろう。

12:28 しかし、わたしが神の霊によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところにきたのである。

12:29 まただれでも、まず強い人を縛りあげなければ、どうして、その人の家に押し入って家財を奪い取ることができようか。縛ってから、はじめてその家を掠奪することができる。

12:30 わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。

12:31 だから、あなたがたに言うておく。人には、その犯すすべての罪も神を汚す言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊を汚す言葉は、ゆるされることはない。

12:32 また人の子に対して言い逆らう者は、ゆるされるであろう。しかし、聖霊に対して言い逆らう者は、この世でも、きたるべき世でも、ゆるされることはない。

12:33 木が良ければ、その実も良いとし、木が悪ければ、その実も悪いとせよ。木はその実でわかるからである。

聖書には、「赦されざる罪」として、聖霊を汚すことと記してあります。

これは、この聖書の文脈からも分かりますように、イエス様による救いの恵みを認めない傲慢な心を指します。せっかくイエス様により、神様の聖霊様の御業が訪れているのに、それを悪霊のわざ座とするということは、神様の清い、温かい、愛のお気持ちを踏みにじり、こともあろうに愛の神様の聖霊を、邪で嘘つきで、命を軽んじ血を流すに早い、だまし滅ぼす悪霊と味噌くそ一緒にするということは、もう救われようがないとイエス様は語られたのです。その救いの手を払いのけて清い霊を侮辱するということはあってはならないことです。しかし悪霊は私たちの手に救いを来たらせないように、ありとあらゆる手を使って妨害しようとはしますが、私たちはその策に乗ってはならないのです。どこに救いがあるのかということ、私たちは死かと目を見開いて見つめなければなりません。

5:17 不義はすべて、罪である。しかし、死に至ることのない罪もある。

5:18 すべて神から生れた者は罪を犯さないことを、わたしたちは知っている。神から生れたかたが彼を守っていて下さるので、悪しき者が手を触れるようなことはない。

すべて神から生れた者は罪を犯さないことを、わたしたちは知っている。

「知っている」の4回書かれていることの第1回目です。神から生まれたものは罪を犯し続けることが出来ないという風に理解できる言葉です。

ローマ 6:14 なぜなら、あなたがたは律法の下にあるのではなく、恵みの下にあるので、罪に支配されることはないからである。

1 ヨハネ 3:9 すべて神から生れた者は、罪を犯さない。神の種が、その人のうちにとどまっているからである。また、その人は、神から生れた者であるから、罪を犯すことができない。

私たちは神様から生まれた者であり、神様によって生かしていただいている者であり、導かれ、守られている者です。「神から生れたかたが彼を守っていて下さるので、悪しき者が手を触れるようなことはない」、神から生まれた方、イエス様が私たちを守っておられ、悪しき者は私たちに指一本触れることが出来ません。しかし私たちは、私たちのうちにある欲によって罪におびき寄せられるのです。しかし私たちはかかわりのないものとしてそれを避けるべきです。罪を犯すことはあっても、神様の霊が私たちに教え、聡、導いてくださるのです。

ヤコブ 1:13 だれでも誘惑に会う場合、「この誘惑は、神からきたものだ」と言ってはならない。神は悪の誘惑に陥るようなかたではなく、また自ら進んで人を誘惑することもなさない。

1:14 人が誘惑に陥るのは、それぞれ、欲に引かれ、さそわれるからである。

1:15 欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生み出す。

5:19 また、わたしたちは神から出た者であり、全世界は悪しき者の配下にあることを、知っている。

「知っている」の第2回目です。世界は悪しき者の配下にある。これは認めたくない言葉です。神様が作られた美しいこの世界がやすやすと悪しき者の配下にあるなどということは、認めたくない言葉です。しかしそれが罪にあって神様に反逆するこの世界の在り様なのです。あちこちに悲惨と搾取といじめと憎しみと戦いがあるのがその証左です。しかし私たちは神様から出た者です。

5:20 さらに、神の子がきて、真実なかたを知る知力をわたしたちに授けて下さったことも、

知っている。そして、わたしたちは、真実なかたにおり、御子イエス・キリストにおるのである。このかたは真実な神であり、永遠のいのちである。5:20 さらに、神の子がきて、真実なかたを知る知力をわたしたちに授けて下さったことも、知っている。そして、わたしたちは、真実なかたにおり、御子イエス・キリストにおるのである。このかたは真実な神であり、永遠のいのちである。

この節には二つの「私たちは知っている」があり、3つの「真実」があります。そして私たちは悪しき者の配下にあるのではなく、「わたしたちは、真実なかたにおり、御子イエス・キリストにおる」と、私たちがどなたの配下にあるのか、どの方のお守りの中にいるのかが記してあります。

「神の子がきて、真実なかたを知る知力をわたしたちに授けて下さったことも、知っている」一番目の「真実」です。真実とは他に、「正真正銘の、現実の、頼ることが出来る」という意味があります。まさにそういうお方を私たちは人生の礎として知り、頼りとし、永遠に寄りすがることのできる方と信じる事が出来るのです。そのお方を知り、信じる知力が私たちに必要です。私たちは自分の心の命じる良くのまに、自分を自力でどうにかしようとかくせくしたり、他人をけん制したり威嚇したり追い越したりしようとする必要はなくなったのです。この清いお方の配下にあること、この地力が私たちを救うのです。神の御子、イエス様の到来、そしてイエス様が明らかにしてくださった生き方を私たちがもたどるのです。

マタイ 20:25 そこで、イエスは彼らと呼ばい寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおりに、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。

20:26 あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、

20:27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。

20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

ピリピ 2:3 何事も党派心や虚栄からするのではなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜った。

神の子は来て、真実なかたを知る知力をわたしたちに授けて下さいました。私たちはこの知力をフルに生かすのです。

「わたしたちは、真実なかたにおり、御子イエス・キリストにおるのである。このかたは真実な神であり、永遠のいのちである。」

ここにも「真実」という言葉が繰り返されています。頼れるお方、信じて実在し、正真正銘の宇佐偽りのないお方です。すなわちそれが永遠のいのちです。永遠に頼ることが出来るのです。

5:21 子たちよ。気をつけて、偶像を避けなさい。

それに比べ、偶像とは虚像にすぎません。偽りの神々です。そこに救う力はありません。偽りで、むなしいものです。見せかけだけで言葉や口先のものばかりです。

しかし私たちの神様は、実際にイエス様を遣わして、私たちの身代わりにして私たちを助け出してくださいました。ここに真実があります。

3:14 わたしたちは、兄弟を愛しているので、死からいのちへ移ってきたことを、知っている。愛さない者は、死のうちにとどまっている。

3:15 あなたがたが知っているとおり、すべて兄弟を憎む者は人殺しであり、人殺しはすべて、そのうちに永遠のいのちをとどめてはいない。

3:16 主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。

3:17 世の富を持っていながら、兄弟が困っているのを見て、あわれみの心を閉じる者には、どうして神の愛が、彼のうちにあるのか。

3:18 子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって



愛し合おうではないか。

2:15 世と世にあるものごとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。

2:16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。

2:17 世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちは神様から生まれ、圧倒的な主のお守りの中にあることをお教えくださり、ありがとうございます。あなたはまことに真実なるお方、リアルに存在し、真正銘の、お頼り出来るお方ですから本当にありがとうございます。私たちが悪から導き出され、正しい行動をすることが出来るようになっていくことを心に刻み、大胆に今週も進ませてください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン